

次世代の健康【学校との取組】

◆小野小学校での骨密度測定



子どもの時期から健康教育を実施し、児童及びその保護者が規則正しい生活習慣を身に付けることで、将来の生活習慣病予防等につながることを目的に、看護大・小野小学校・市との連携により平成27年度から令和2年度まで小野小プロジェクトとして、健康測定と健康教育を実施した。今年度は、プロジェクトは終了しているものの、養護教諭が中心となり、健康意識の向上をめざした関わりは継続している。

市からは健康づくり推進員とともに、全学年に対して、**骨密度測定**を実施した。

◆古賀西小学校での骨密度測定、健康講話

2月に古賀西小学校6年生に対し、**骨密度測定**と市保健師による講話を行う予定。

児童一人ひとりが自分自身の体に興味をもち、給食や家庭での食事を題材に自身の成長に必要な食生活についても学ぶ。中学進学を目前にしたタイミングで、生活習慣や健康（成長）とのつながりを考える機会とする。

◆花見小学校でのみそづくり体験

例年小学3年生を対象に、食育活動の一環としてみそづくり体験を実施している。みそづくりを通して、日本の食文化に触れるとともに、子どもたちの食への関心や興味、食育活動の意欲につなげていく。今年度は10月に食生活改善推進員と市職員で実施した。



◆スタンドアローンでの簡単朝食づくりや魚さばき体験

社会体験学習支援として、中学生を対象に食生活についての意識を高め、家庭において自分一人でも調理ができるようになることを期待し、簡単朝食づくりを実施した。また魚食の機会の減少や食の安心・安全に対する意識や、地産地消を推進するため魚さばき体験を実施した。



【課題及び今後の展望】

- ・昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で子どもや子育て世代を対象とした健康測定の機会が少なく、若い世代に対してアプローチできる機会が少ない。
- ・他の小・中学校でも市と協力した健康測定や健康教育、食育が展開でき、学校が主体的に健康づくりの視点を持った取り組みができるよう、引き続き学校（養護教諭や担任）やPTCAと連携を図っていく必要がある。